

琉球大学学術リポジトリ

「文化化」のプロセスから捉える「しまくとうば」の継承 -ニュースピーカーのライフストーリー研究から-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 朋世 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002020389

様式第13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 石原 昌英

副査 喜納 育江

副査 宮平 勝行



学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学籍番号	学生氏名	宮城 朋世	
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻	主指導教員	石原 昌英	
	副指導教員	喜納 育江 宮平 勝行	
成績評価	学位論文	合格	不合格
論文題目	「文化化」のプロセスから捉える「しまくとぅば」の継承 —ニュースピーカーのライフストーリー研究から		
審査要旨	<p>本博士論文は、消滅の危機に瀕している琉球諸語の一つである沖縄語の習得に努めている沖縄出身のニュースピーカである4名の研究協力者を対象に実施したインタビュー調査のデータをSCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いて分析したものである。第1章では、研究の目的、意義、視座について述べ、沖縄出身で沖縄語のニュースピーカーである筆者の当事者としてのポジショナリティについても論述している。第2章では、研究協力者の語りを「先住民の方法論」で分析する理由を述べている。第3章で研究協力者のしまくとぅばに関するライフストーリーのインタビューデータとその分析を展開し、第4章で調査協力者のインタビューデータを「居場所の明確化」「自己価値の明確化」「社会との繋がり」の明確化、「目的意識の明確化」「周囲との関係性変化」の観点から導き出されたストーリーラインと理論記述を分析している。第5章では、研究協力者のしまくとぅばに関する「文化化」のプロセスをKJ法を用いて分析している。</p> <p>本研究の特徴は、研究協力者である4名のニュースピーカーが、しまくとぅばを「琉球文化の基層」としてではなく、祖父母や地域社会とのつながりに基づくアイデンティティの基盤として認識していることを明確にしたことである。さらに、その認識から、関係する人々の「精神の脱植民地化」「トラウマの克服（癒し）」「ウェルビーイング」がもたらされるというしまくとぅば継承の意義も明らかにされている。</p> <p>本博士論文は、「問題意識の明確性」「論証過程の説得性」「研究成果の独創性」「表現・引用の適切性」の評価基準をすべてクリアしていると評価できるので、学位論文審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。</p>		

様式第 1 4 号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 石原 昌英

副査 喜納 育江

副査 宮平 勝行



最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	学生氏名	宮城 朋世	
人文社会科学研究科	比較地域文化専攻	主指導教員	石原 昌英
		副指導教員	喜納 育江 宮平 勝行
成績評価	最終試験	合格	不合格
結果要旨	副査宮平勝行教授の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について口頭による最終試験を行った。本論文題目は、「文化化」のプロセスから捉える「しまくとぅば」の継承—ニュースピーカーのライフストーリー研究から—である。以下の三点を軸に試験を行った。まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達しているか審査した。次に、本論文に関連する基礎的な専門知識や自らの論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献について質問した。そして、本論文で取り上げた研究分野に係る授業科目（「言語政策特論」「言語政策演習」など）の視点から、学位に相応しい研究能力とその学識を有しているか審査した。以上の点から、本審査委員会は、本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験を合格と判断した。		